

第1回 福井県立美術館機能強化に関する基本計画策定委員会 議事概要

- 1 日時: 令和7年7月11日(金)14:00~15:40
- 2 場所: 福井県立美術館 第4研修室
- 3 出席者 委員(9名)

議題1: 令和6年度県立美術館のあり方および基本的方向性について

資料1に基づき、事務局から説明
特に意見なし

議題2: 令和7年度福井県立美術館の機能強化に関する基本計画策定による
検討スケジュールについて

資料2に基づき、事務局から説明
特に意見なし

議題3: 現状について

議題4: 目指す姿・果たすべき役割について

資料3、資料4に基づき、事務局から説明

(委員からの意見)

- ・美術館の基本的な機能をしっかりと踏まえつつ新しい美術館の姿を模索するということになる。まずは美術館の基本的な機能みたいなのところをしっかりと押さえて、初めて新しい機能がある。
- ・計画が出来上がって、そこにどういう風景が生まれるのか。こういう風景が生まれてほしいから、こういう方向性で進むっていうふうにできたらいい。例えば、子供も大人も、障がい者も、いろんな人がアートとともに人生を育んでいく風景のような、具体的なあり方に繋がるようなビジョンだったら、よりいい。
- ・福井県には芸大・美大がなく強い興味関心がある若者も一部は県外に出ないといけないういけない。美術館が戻ってくる場所の一つになってほしいし、美大・芸大がないところで美術館の果たす役割っていうのは大きな期待を持ちたい。
- ・来てびっくりするとか、今までにないものを見せるとか、美術館にとって、一番重要なことじゃないか。どこの高校も、美術の先生がだんだん少なくなって、美術の教室も少なくなった。その中、美術館に来てもらって、絵の前で講義するとか、そういう授業もいい。

- ・居場所というか、気軽に美術館に来て滞在できるような、その条件をつくるっていうことをぜひ進められるといい。ハード面もいろんな問題があり、その改善を重ねながら、ソフト面を上手に絡めるといので考えると、まだ可能性いっぱいある。
- ・この近くには、大学と高校があり、喫茶店に生徒たち集まっている。その人たちが美術に触れているかという、あまり関係なく、そこにいる感じなので、そこで仕掛けて、その人たちを入れるようなことも考えてもいい。
- ・校外学習では何かワークショップ的なものを見て、その後自分で何か作ってそれを持って帰って、50 分ぐらいで遊んで帰りを待つってというような時間の組み方をする。そういった校外学習なんかを利用して、県美とどこか組んでというのでもいいが、校外学習先として選ばれるようになるのがいい。
- ・中之島美術館に展覧会を見に行ったときに、学生が、おそらく授業で、そこでデッサンをしていた。福大にも美術を専攻している学生がいるので、そういう子たちが、ここへ来て勉強ができる、美術の先生も学べる、というのがあったいい。
- ・県内の様々な移住者の方が、アートに関連する活動をたくさんやっている。象徴として、県立美術館がどうあるべきかということは、全体の県の中を見て考えていく必要がある。県立音楽堂は、やっぱり音楽の殿堂であるという象徴的な役割があると思うので、県立美術館が県内のアートシーンの中でどう位置づけられるかっていうことを考えた方がいい。
- ・クリエイティブの経済っていうのは福井にとって一番大切なことで、それをつくる子供たちや、若者のエネルギーを県立美術館も担わなきゃいけない。それは県の経済的にも大事だし、やっぱり県外の人に、福井県立美術館はすごいねって言ってもらえないといけない。
- ・クリエイティブやアートに敷居を感じてしまう人もいっぱいいて、自分には関係ないって思ってしまう人はたくさんいる。考え方として、みんなに来てもらいたいのか、理念に共感して、アートや、クリエイティブに、どこまでの人にどう共感してもらって来てもらいたいかっていうのは必要。
- ・21 世紀美術館には、アートのことはよく知らないけれど通っている。行って、お茶を飲んで帰ってくると、やっぱりそう気分が上がる。そういうのをこの県立美術館でも大事かなと思う。
- ・象徴的な場所でありながら、何らかそこに行ってみたいな憧れを持つ場所が一番イメージとして共有されやすい。そういう場所をどういう風にどういうメニューでどう作っていくのかというのを、落とし込んでいくとコミュニケーションしやすいものになる。
- ・ハードのところもすごい重要で、そのハードに吸い込まれて、ソフトが展開するっていうのもあるので、両方重要。
- ・美術というジャンルというか世界、これが壁を作っている。美術の対象になるものは、必ずしも今までの美術や美術史が扱ってきたような、絵画、彫刻というジャンルにこだわらずに美術って何だろうかと、美術として捉えられるのはどういうものがあるかっていうことを、もう 1 回見直すことで、誰にでも開かれる。そういう美術館活動ができる。垣根を美術館側から低くする必要がある。

議題 5: 県民への意見聴取方法について

資料5に基づき、事務局から説明

(委員からの意見)

- ・このアンケート案は、どちらかというと定量的。定性で具体的インタビュー的なそういう情報も得るべき。
- ・こういう定量的なアンケートって絶対聞かれるとわかっているような質問される。何か、県立美術館のイメージは何かに例えると何ですか、とかそういう全然違うものを入れて、どういうものが出てくるかとか、何かそういうのをちょっと入れるといい。

その他

- ・そんなに大きくはないけどとても個性的な、学校教育と結びついたすごくいいプログラムにするなど、福井の美術をどういうふうに演出して見てもらうかをよく考えてすると、この美術館はとてもよく考えていて質が高いとされるのではないかな。